

(3)板書計画、座席指導評価表の活用 **1年**「のこりはいくつ ちがいはいくつ」

板書計画

本時に入るに当たって、板書計画案を立てる。その中に教師の発問と予想される児童のつづやきを書くことで、授業の展開の見通しを持つことができる。

この図は、授業の展開を見通すための板書計画案を示しています。教師の発問と児童の予想されるつづやき（書き込み）が示されています。

- 教師の発問:**
 - 「のこりはいくつ？」
 - 「ちがいはいくつ？」
 - 「このこり、どうやってたどりますか？」
 - 「このこり、どうやってたどりますか？」
 - 「このこり、どうやってたどりますか？」
- 児童のつづやき:**
 - 「のこりはいくつ？」
 - 「ちがいはいくつ？」
 - 「このこり、どうやってたどりますか？」
 - 「このこり、どうやってたどりますか？」
 - 「このこり、どうやってたどりますか？」

座席指導評価表

本時に入るまでの児童の実態も分かるようにする。

座席指導評価表は、支援の必要な児童とT1・T2の支援の分担を明らかにし、支援を効率的にするために有効である。授業後、座席指導評価表をもとに個々の学習を評価するが、T1だけでは見落としやすい気づきやつまずきもT2の書き残したメモから補うことができ、きめ細かい評価を行うことができる。

T1・T2が支援するエリアを明確にする。

単元指導評価表

この表は、座席指導評価表の一例です。縦軸には児童の名前、横軸には評価項目が記載されています。

この表は、単元指導評価表の一例です。縦軸には児童の名前、横軸には評価項目が記載されています。

各時間の評価は、座席指導評価表をもとに単元指導評価表に集約する。単元指導評価表には、評価規準と指導の観点が各時間ごとに明記されている。